

皆さん新年明けましておめでとうございます。

2016 年の年頭にあたり、海陸従業員の皆さん、またグループ各社の皆さんに新年のご挨拶を申し上げます。

川崎近海汽船は今年創立 50 周年を迎えます。当社は 1966 年に川崎汽船の内航事業が分離独立し設立に至りました。その後アジア地域を専らとする外航海運を川崎汽船から分離、その商権を継承することになりました。一方 1973 年に産声を上げたシルバーフェリーを 1992 年に統合し、1995 年に東証 2 部上場を果たしました。その後も幾多の困難に遭遇してきましたが、当社は国内外の航路を併せ持つ海運界では稀な存在として独自性を発揮し、且つ安定した経営を誇りとする会社に成長してきました。

しかしながら、至近の 10 年を振り返るとリーマンショック、東日本大震災そして現在進行中である中国経済減速による世界規模での景気停滞と立て続けに大きな試練を経験することになりました。それにつれて最大顧客である日本企業の事業環境が様変わりし、そのニーズにも変化が現れて来ました。このことはこれまで培われた我々の商売上の経験則が必ずしも通用しない、そういう時代になったと自覚する必要があります。加えて、長らく懸念されて来た内航船員の不足が徐々に顕在化して来ました。これからの事業展開に欠く事の出来ない重要、且つ難しい問題ですが、新旧のネットワークを使いながら着実に事業インフラを整えて行こうと思います。

(新たな挑戦)

そういう状況の下、今年 2016 年に新しい挑戦が始まります。その一つがオフショア支援船の登場です。他社に先駆けて新しい事業へ踏み出す事になりますが、この分野のグローバルな市況は決して良いとは言えません。原油価格の暴落により、世界中のほぼ全ての資源開発がシュリンクしています。しかし我が国においては日本海での原油試掘支援、メタンハイドレート、海底熱水鉱床試掘支援、洋上風力設置、離島整備支援等、独自の事業が存在しており、海外とは異なる展開を期待しています。この分野は短期の得失で判断すべきではないと考えています。

(新しい海道が物流の付加価値を高める)

そして今年の秋にいよいよ清水・大分の定期航路がスタートします。現在はそれに向けての準備を進めているところですが、航路開設によって九州と首都圏、東海甲信地域を結ぶ物流のモーダルシフトが促進されると信じています。この航路を 20 時間で結ぶことによって九州の農産品が出荷翌々日朝の東京市場の競りに間に合い、トラックで延々陸路を走ると同じ価値を生み出すこととなります。ドライバー不足と同時に労務管理の徹底、又 CO2 排出量削減への本格的取組み、こういう時代背景をベースとして、新しいニーズに対応できるこの航路が大きく成長していくことを期待しています。

シルバーフェリーも再来年を期して室蘭・宮古の新規航路開設を目指します。現在は宮古港

の受入体制を地元と詰める段階にあります。この航路が地元の期待を反映して、三陸地域の復興の礎となり、また飽和状態にある苫小牧港の物流の補完的役割を果たすことを願っています。

（外航海運の取組み）

ご承知のようにここ数年外航海運市場は未曾有の市況低迷に陥っており、内外の外航船社の経営破綻さえも伝えられるようになりました。当社もこの部門をどうしていくか、将来の展望を問われています。世界経済は中国の経済減速、テロの脅威など上向く兆しは今のところ見当たりません。当面は高コスト船の処分をしながら我慢を強いられることになるでしょう。長い間会社の企業価値を支えてきた外航部門をなくすわけにはいきません。従って、これからは長期的な視野で顧客のニーズに合う船種と隻数を備えた船隊を形成し、事業の建て直しを図ることにしたいと思います。

（内航不定期船）

次いで内航不定期の分野ですが、鉄鋼、電力向けの長期契約に投入されている各船は安定した輸送を続けています。一昨年登場した東京電力向け専用船『やまさくら』は就航以来事故もなく安定した輸送を続けており、首都圏の電力安定供給に貢献しています。一方で一般船のマーケットは予想に反して、昨年から低迷期に入りました。東日本大震災の復興事業、東京オリンピックと建設・土木の需要が喧伝され大いに期待をしましたが、今のところ荷動きは芳しくありません。とは言うものの、この分野は唯一長期契約が見込まれることもあり、今後も力をいれていくことになります。

振り返りますと早や5年、東日本大震災の直後、茨城、八戸と当社の国内航路の主要港湾が甚大な被害を受け、内航定期船、フェリー事業の継続が危ぶまれたわけですが、そこから想定を超えるスピードで事業復興を成し遂げた我々です。目まぐるしく変化する世の中に臆することなく、新しい時代に向けて強い覚悟を持ちたいと思います。

最後になりますが、昨年夏に苫小牧沖のフェリー火災事故においてシルバークォーンが海難救助で見事な活躍をし、海上保安部の表彰を受けるに至りました。日頃の事故対応訓練が如何に役立つかを再認識させられた出来事であります。そして、何よりも我々の仲間が勇敢に目の前にある危機に立ち向ったことは長く記憶に残ることでしょう。

洋上で新年を迎えられた乗組員の皆さんを始め海上従業員の皆さん、そして乗組員を支えるご家族の皆さん、今年も健康で皆さんの大きな絆の中で安全運航を全うし、顧客に信頼される船会社であり続けましょう。

そして全従業員の皆さん、この時代が大きく変化する中、今一度グループ各社の結束を確認し、強い意志を持って難局を乗り越え、手を携えて川近の新たな未来を築いて行きましょう。